Rinnai システムキッチン用［ビルトインコンロ］

設置説明書

この機器の設置には資格が必要です。

型　　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅	備　　考
RB31AM4H2S	RB31M4HS-W	ホーロー	60cm	片面焼グリルタイプ
RS31M4H2S				

◆設置される方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された設置を行ってください。
- 設置が終わったら 7 設置後の点検確認 のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- 設置終了後は、この「設置説明書」を「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。

ページ

1 安全に正しく設置していただくために ―― 2～5
2 寸法図 ―― 6
3 同梱部品と設置後不要となる部品の確認 ―― 7～8
4 コンロの単独設置 ―― 9～16
5 ガス配管工事・ガス配管接続工事 ―― 17
6 コンロとオーブンの複合設置 ―― 18～23
7 設置後の点検確認 ―― 24
8 試点火および試運転 ―― 24

JS0038-051×01（00）
07000005294960
（工場管理）

1 安全に正しく設置していただくために

機器を安全に正しく設置していただくためや、設置作業者や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。

分解禁止　一般的な禁止　一般的な警告・注意　必ず行う

特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

⚠警告

■設置は必ず、この「設置説明書」と「ガス機器の設置基準および実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に従う

変則的な設置をすると事故や火災の原因になります。

■この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置説明書」をよく読み、指定された設置を行う

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

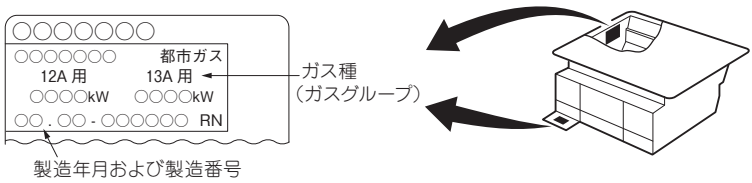
金属管や金属可とう管などによる機器へのガス配管接続工事・取りはずし工事は、必ず有資格者が行ってください。

⚠注意

■供給ガスと設置する機器の銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）が一致していることを確認する

合っていない場合、そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、異常点火でやけどしたりすることがあります。また、故障の原因にもなります。
銘板は機器内左後方側面と前面の電池ケースふた裏面に貼ってあります。

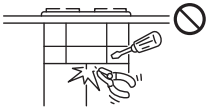
〈例〉銘板（12A・13Aの場合）



⚠注意

■絶対に分解は行わない

設置で必要なところ以外は、絶対に分解は行わないでください。
一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、機器故障やガス漏れや火災の原因になるおそれがあります。



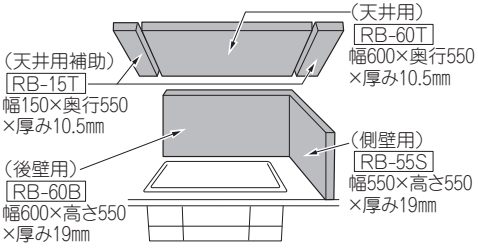
■業務用として使用しない

この機器は家庭用専用ですので、業務用のような使いかたをすると、機器の寿命が極端に短くなります。

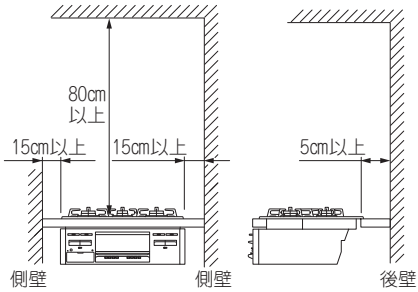
■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

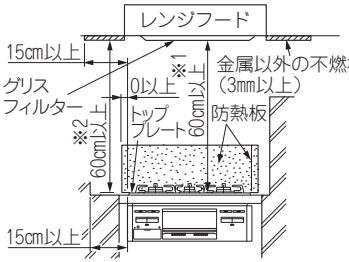
- 火災予防条例で定められています。必ず守ってください。
  距離が近いと火災の原因になります。また、可燃性の壁にステンレス板などを直接取り付けて使用しても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し、火災になることがあります。
- 周囲に可燃物（木製の壁、棚など）のある場合は、次のようにしてください。
  トッププレートより上の側面は15cm 以上、後面は 5 cm 以上、上部はトッププレート上面より80cm 以上離して設置します。
- 可燃性の壁（ステンレス板などを貼り付けた可燃性の壁も含む）から側面は15cm 以上、後面は 5 cm 以上、また、上部はトッププレート上面から80cm 以上離して設置できない場合は、壁面に別売の防熱板を取り付けてから設置します。調理台・流し台の側面などが可燃性で機器のトッププレートより高い場合も、流し台側面を保護してください。
- オーブンとの複合設置をする場合、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照し、**トッププレートから後面の可燃物との距離**を確認し、コンロとオーブン両方満足する距離を確保して、設置してください。

防熱板（別売）



※防熱板については、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。





※1．レンジフード以外の場合は、80cm 以上
※2．不燃材がない場合は80cm以上

- 前記の設置基準は、共同住宅など（戸建て専用住宅、共同住宅、店舗併用住宅の住宅部分であり、営業用および一般事業所の従業員食堂、学校、病院の給食用等の以外のもの）の用途の建築物であり、また排気方式が、各住戸の厨房用ダクトが単独排気方式の場合に適用されます。

⚠注意

■設置するときは、下記の項目に注意する

〈法律・法令など〉

- 燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施す必要があります。
- この機器を設置する台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

〈設置場所など〉

- 車両・船舶には設置しないでください。
- 機器設置時は、ガス工作物、電気工作物などの他の設備に悪影響を与えない位置に設置してください。
- 引火性の危険物（ガソリン・灯油・ベンジン・接着剤など）や、業務用薬品（アンモニア・硫黄・塩素・エチレン化合物・酸類などの腐食性薬品）を周囲で保管したり、取り扱う場所には設置しないでください。
- 十分に換気のできるところに設置してください。
- 水のかかるところには設置しないでください。
- 水平で安定した場所に設置してください。

〈周辺環境など〉

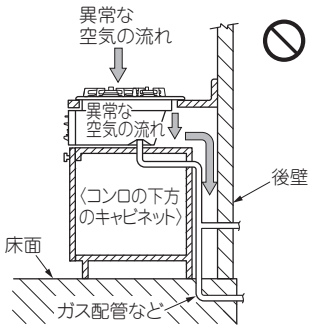
- 湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しないでください。
- 棚の下など落下物の危険のあるところには設置しないでください。
- 排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがないでください。
- 強い風が吹き込む場所や、機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しないでください。
  （点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しくはたらかないことがあります。）
- 保守メンテナンスをする場所が確保されていることを確認してください。
  設置後、トラブルの原因になったり、点検・修理に支障をきたしたりします。

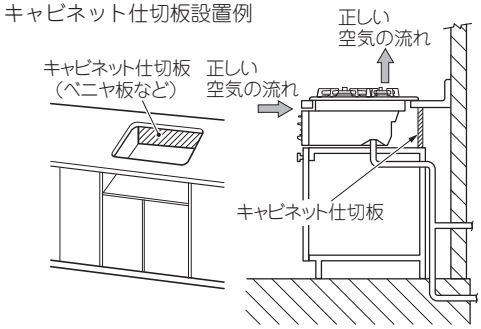
設置場所を決めるときは、お客様とよく相談してください。

■キャビネットを背板などでふさぐ

コンロ後方がふさがれていない場合は、ベニヤ板やアルミテープなどによりふさいでください。

コンロ後方がふさがれていないと、コンロと後方空間や外気との間で異常な空気の流れが起こる場合があり、炎がもぐりこんだり、消火したり、不完全燃焼することがあります。

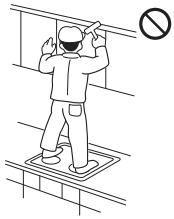




⚠注意

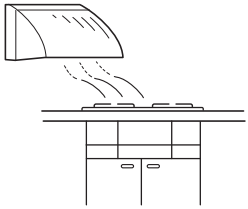
■機器の上に乗らない、傷つけない

機器の上に絶対に乗らないでください。トッププレートが破損し非常に危険です。
トッププレートに強い衝撃を与えたり、過度な荷重をかけたりしないでください。トッププレートの破損の原因になります。



■十分な換気設備がある場所に設置する

この機器は、レンジフードなどでの換気が必要です。
設置するガス機器および同一室内に設置してある他の機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置してください。
ただし、室内給気式（FE・CF）給湯器・ふろがまを使用している場合は、レンジフードなどを回すと排気ガスが逆流して、一酸化炭素中毒の原因になるおそれがあります。

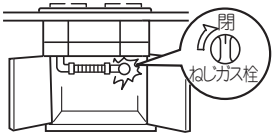


■機器設置の際には必ず手袋をする

けがの防止になります。

■設置後は必ずガス栓（ねじガス栓）を閉める

機器のガス栓（ねじガス栓）は機器下方または、となりのキャビネット内にあります。
ガス事故防止のため、必ず行ってください。



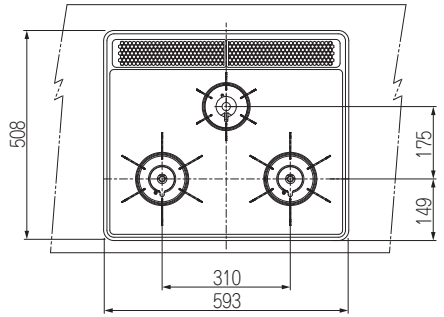
お願い

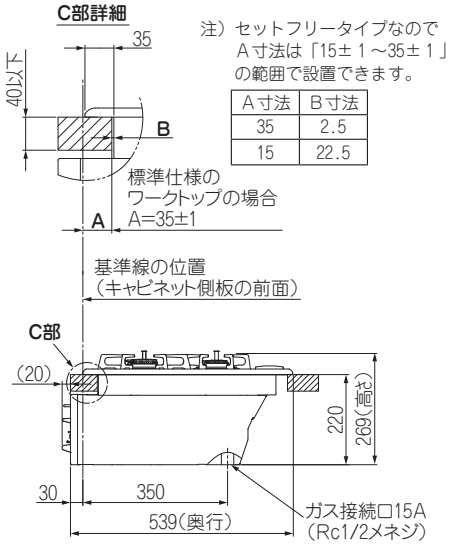
- ◉本体をタイルやモルタルで、塗り込まないでください。
- ◉耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところを選んでください。
- ◉ワークトップ材は、熱硬化性樹脂化粧板（JIS・K・6903）またはこれと同等以上の材料をお使いください。
- ◉表面がニス引きのものは、変色するおそれがあるので、使用しないでください。
- ◉本機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。
  そのままにしておきますと、思わぬ事故になります。

2 寸 法 図

1．外形寸法図

（単位：mm）



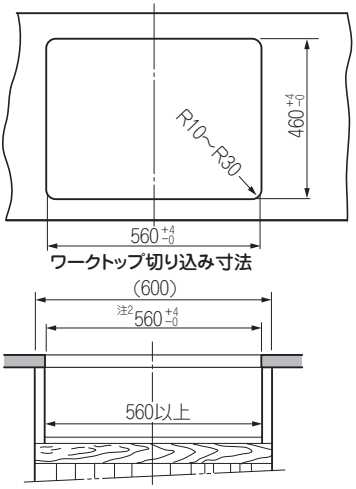


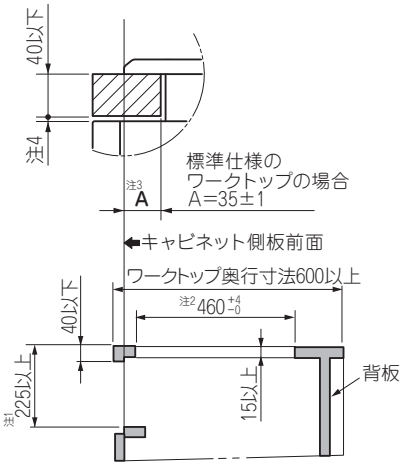
注）セットフリータイプなので
A寸法は「15±1～35±1」
の範囲で設置できます。

A寸法	B寸法
35	2.5
15	22.5

2．キッチン組み込み寸法図

（単位：mm）



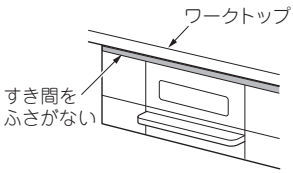


注1　高さ寸法は、ワークトップ上面からの寸法。

注2　ワークトップ開口寸法。公差内になるよう加工する。

注3　A寸法は、15～35mmの範囲で設置可能。

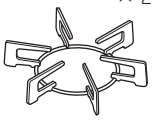
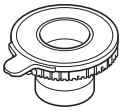
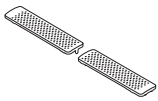
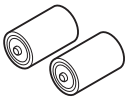
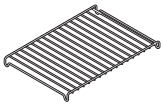
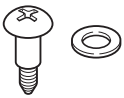
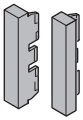
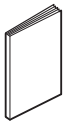
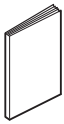
注4　機器設置時において、空気が流れるようにワークトップ下面（パッキンなどを含む）と本体上面とのすき間を必ず3mm以上確保する。すき間を化粧板などで閉塞すると、不完全燃焼の原因になります。



3 同梱部品と設置後不要となる部品の確認

1．同梱部品の確認

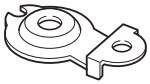
① 部品の不足がないことを確認する。

<table>
<tr><td rowspan="2">部品名
・
形 状</td><td>ごとく(大)
× 2
  </td><td>ごとく(小)
 </td><td>バーナーキャップ(大)
× 2
  </td><td>バーナーキャップ(小)
 </td><td>排気口カバー
  </td></tr>
<tr><td colspan="2">単1形マンガン乾電池（お試し用）
  </td><td>グリル焼網
  </td><td colspan="2">トッププレート固定ねじ
× 2
 
（パッキン付）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>グリル庫内に収納しています。</td><td colspan="2">トッププレート左後部にテープ止めしています。</td></tr>
<tr><td>部品名
・
形 状</td><td>エンドピース
  </td><td>取扱説明書(保証書付)
  </td><td>設置説明書
  </td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

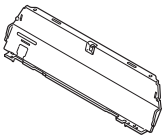
2．設置後不要となる部品の確認

① 設置方法によって不要となる部品が異なるので必ず確認する。

〈コンロの単独設置の場合〉

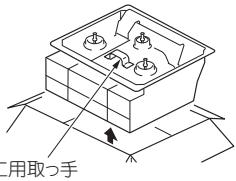
	底シール栓	底シール栓押え板
部品名・形状		

〈コンロとオーブンの複合設置の場合〉

	接続用シール栓	シール栓押え板	接続口カバー	本体カバー
部品名・形状				

■開梱時の注意事項

◉施工用取っ手を持って、機器を段ボール箱より取り出してください。



4 コンロの単独設置

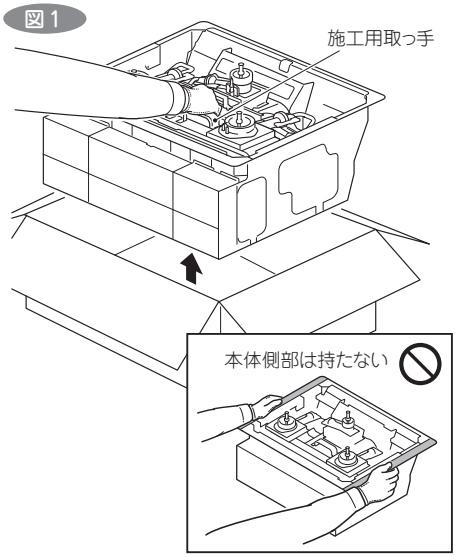
1．開梱・機器の取り出し

① 開梱して機器を取り出す。 図1

◉輸送のため各部品にあて紙や包装部材があるので、全部取り除く。

※必ず施工用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を持ち上げると、本体側部が変形して、トッププレートが浮き上がる原因になります。

図1



② グリルとびらを引き出して、グリル庫内のグリル焼網、グリル皿を取りはずす。
図2 図3

図2

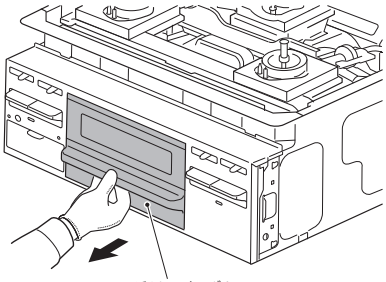
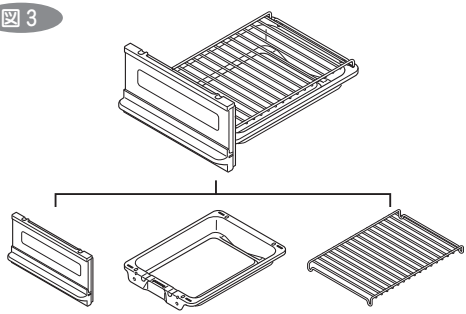


図3



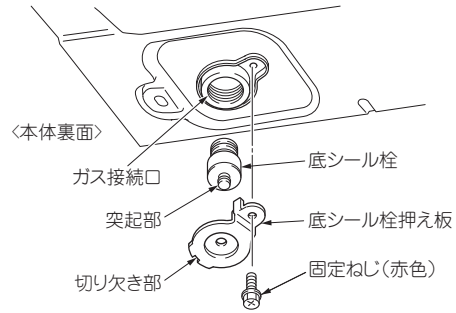
2．コンロ単独設置用の底シール栓の取りはずし

① ガス接続口の底シール栓を取りはずす。

図 4

◉本体底面左側にある固定ねじ（赤色）1 本をはずし、底シール栓押え板をはずし、底シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜く。

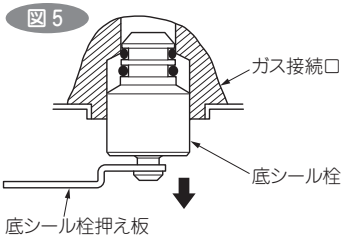
図 4



◉ペンチなど工具がない場合は、底シール栓の突起部に底シール栓押え板の切り欠き部を引っかけて引き抜く。 図 5

※取りはずした底シール栓、底シール栓押え板、固定ねじ（赤色）は不要です。

図 5



⚠注意

■オーブンを接続する場合は、底シール栓をはずさない

オーブンを接続した場合、底面のガス接続口が開いたままになるため、ガス漏れの原因になります。

■機器設置とガス配管接続工事を同時に行わない場合は、機器設置時には底シール栓をはずさない

ガス接続口にほこりや異物が入るため、ガスのつまりやガス漏れの原因になります。

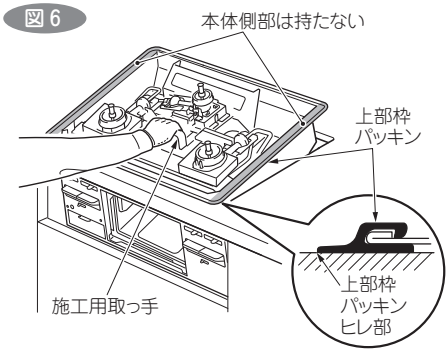
3．コンロの設置

① コンロを組み込む。 図6

◉コンロの施工用取っ手を持ち、前面を先に挿入して、前パネル・つまみなどに傷がつかないよう注意しながら、コンロを組み込む。

※必ず施工用取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を組み込むと、本体側部が変形して、トッププレートが浮き上がる原因になります。
※バーナー・バーナー支えなどの燃焼部品を持って組み込むと、燃焼不良の原因になります。

図6



お願い
◉コンロを組み込む前に、キャビネットが背板などでふさがれているか確認してください。（P4参照）
◉上部枠パッキンが本体からはずれていないか確認してください。
◉必ず上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか確認してください。（特にコーナー部）丸まっている場合は、丸まりを直してください。

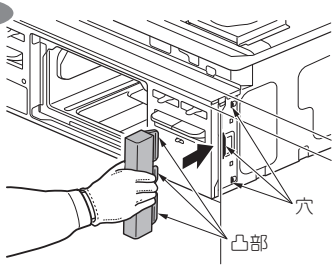
4．エンドピース・グリルとびら・グリル皿・グリル焼網の取り付け

エンドピース

◉エンドピースの上下・中央の凸部を本体側面の穴に差し込む。 図7

※エンドピースは左右共通です。

図7

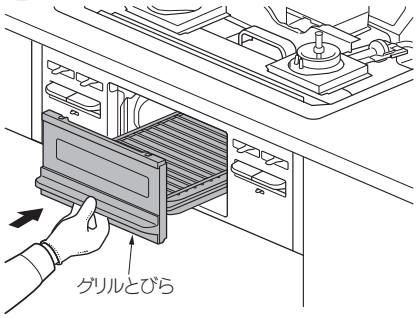


※図はエンドピース（右）を示す。
エンドピース（左）も同様に左側へ取り付ける。

グリルとびら・グリル皿・グリル焼網

◉グリルとびら、グリル皿、グリル焼網を機器本体に取り付ける。 図8

図8



5．コンロの固定

① コンロをワークトップに固定する。
図 9

◉コンロを固定する前に、**コンロの前面とキャビネットとびらの前面が合うようにコンロの位置を調整する。**

◉本体側面についている止めねじ 4 本を回して、コンロを動かない程度に固定する。

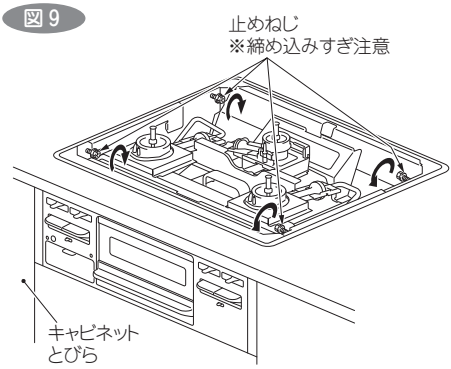
> ※締め込みすぎると、ワークトップを壊したり、コンロが変形したり、トッププレートが浮く原因になります。

〈使用工具〉
プラスドライバー、スパナ（呼び 8 ）、ペンチ

◉スパナがない場合は、ペンチ・プライヤー・ラジオペンチなどで止めねじの六角部をはさんで、ねじを回す。

※工具を使用する際には、バーナーなどの部品に傷をつけないようにする。

図 9



6．トッププレートの取り付け

① トッププレートを取り付ける。
図10　図11

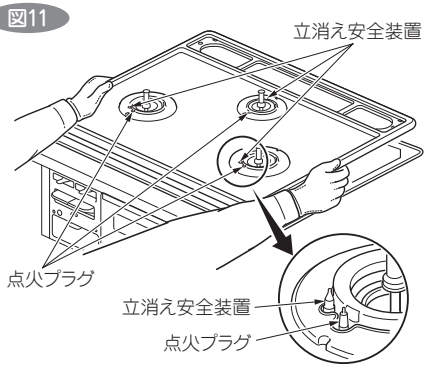
◉トッププレートの手前を本体手前のツメ（3 カ所）に引っかけ、上部枠パッキンにはめ込む。

図10

◉点火プラグと立消え安全装置をトッププレートの穴へ通すように、取り付ける。 図11

※点火プラグと立消え安全装置の部分で、トッププレートの乗り上げがないことを確認する。

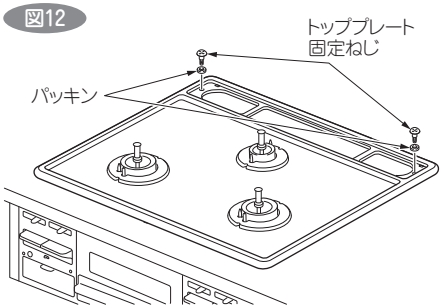
図11



② トッププレート左後部にテープ止めしてあるトッププレート固定ねじを使用して、トッププレートを固定（2カ所）する。 図12

お願い
◉バーナーや立消え安全装置を傷つけたり、点火プラグを曲げたりしないよう注意してください。

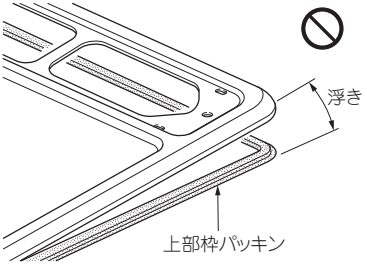
図12



⚠注意

■トッププレートは誤った取り付けで使用しない

トッププレートを正しく取り付けないと、点火しないなどの場合があります。



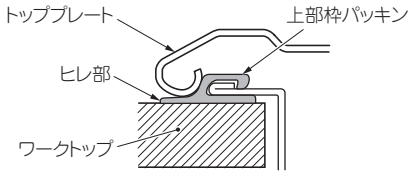
■トッププレートは確実に取り付ける

■トッププレートの取り付けは、浮きがないように上部枠パッキンに確実にはめ込む

取り付けがかたい場合は、上部枠パッキンを本体側に押し込んでなじませてください。

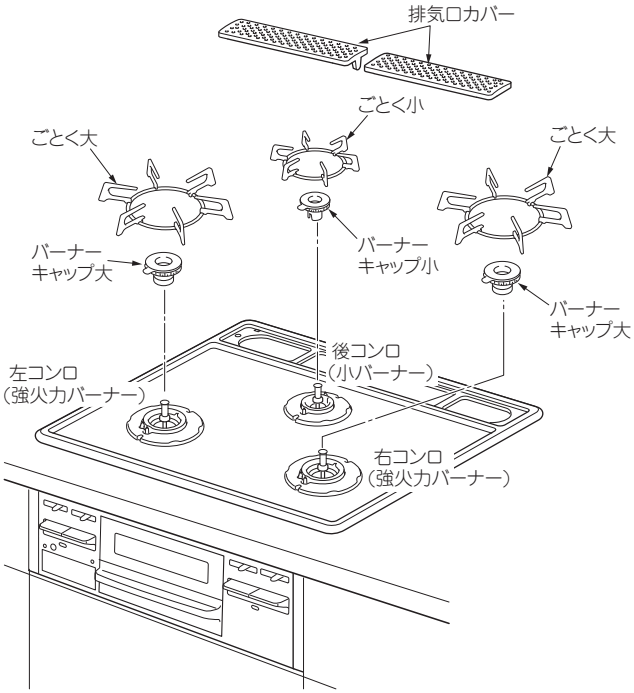
■上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか必ず確認する

ヒレ部が丸まっている場合は、丸まりを直してください。（特にコーナー部）



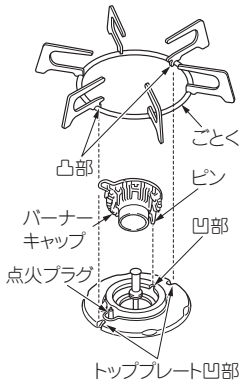
7．部品の取り付け

図13

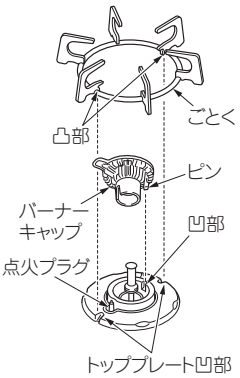


◉バーナーキャップ、ごとくは、下図のように正しく取り付ける。

左／右コンロ（強火力バーナー）

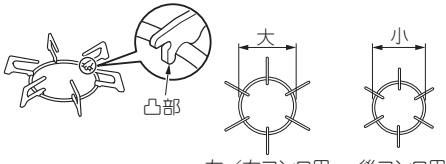


後コンロ（小バーナー）



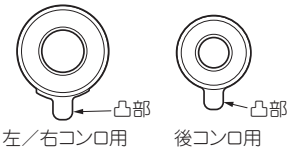
ごとく

◉トッププレート前後の凹部2カ所にごとく内側の凸部2カ所を入れて、正しく取り付ける。



バーナーキャップ

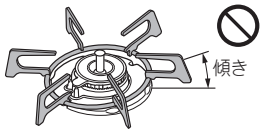
◉バーナーキャップの凸部を前にして、バーナー本体後側の凹部にバーナーキャップのピンを入れて、正しく取り付ける。



⚠注意

■ごとくは誤った取り付けで使用しない

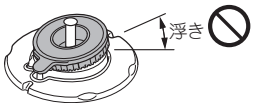
誤った取り付けをすると鍋などが不安定になり、傾いたり、倒れたりします。



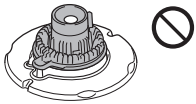
誤った取り付けの例

■バーナーキャップは誤った取り付けで使用しない

- バーナーキャップを正しく取り付けないと、点火しない場合があります。
- 炎のふぞろいや逆火で不完全燃焼、一酸化炭素中毒のおそれやバーナーキャップが変形する場合があります。
- 機器の中に炎がもぐりこんで焼損する原因になります。



バーナーキャップの浮き

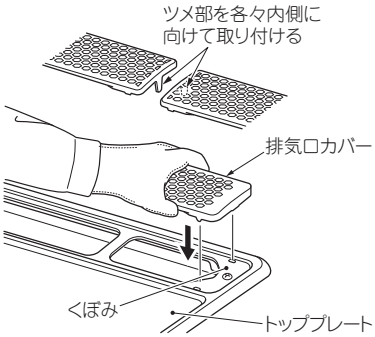


バーナーキャップの裏返し

排気口カバー

◉トッププレート後部のくぼみに 2 つの排気口カバーのツメ部を各々内側に向けて、取り付ける。

※傾きのないことを確認する。

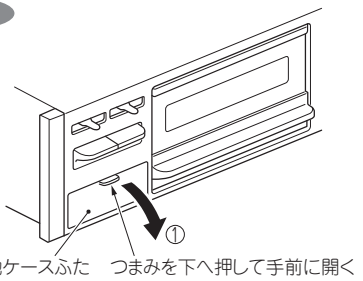


8．乾電池の取り付け

① 電池ケースふたのつまみを下へ押して、手前に開く。 図14

※あまり強く押さないでください。電池ケースふたがはずれることがあります。

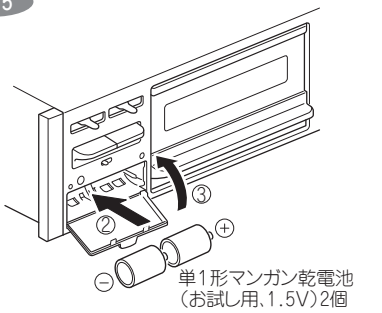
図14



② 単１形マンガン乾電池（お試し用、1.5V）２個を右図のように⊕⊖の向きを確認して、奥まで確実にはめ込む。 図15

③ 電池ケースふたを元に戻す。

図15



9．ガス配管工事・ガス配管接続工事

◉ 5 ガス配管工事・ガス配管接続工事 を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行う。

◉必ず、ガス漏れ検査を行う。

5 ガス配管工事・ガス配管接続工事

⚠ 警告

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

接続工事・取りはずし工事は、必ず有資格者が行ってください。
有資格者がいない場合、ガス事業者の指定する工事店にご依頼ください。

- ●接続の際は、ガスシール材を必ず使用してください。
- ●ガス栓（ねじガス栓）を必ず取り付けてください。
- ●接続完了後、ガス漏れのないことを確認してください。
- ●取りはずした部品は、必ず取り付けてください。

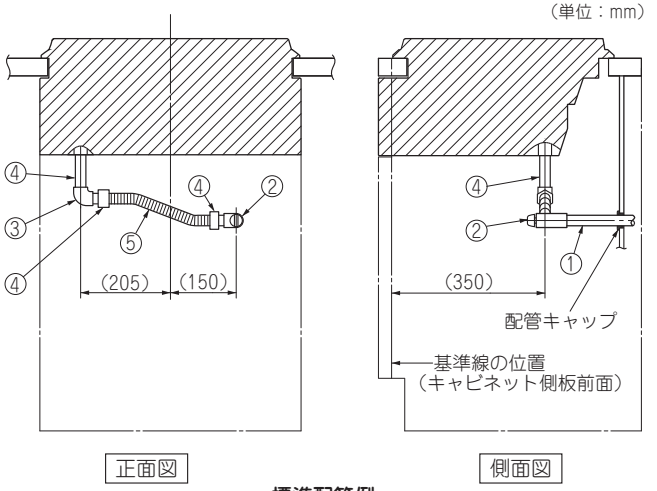
① コンロの配管方法

◉ガス配管接続は、金属可とう管または金属管接続する。

◉配管周囲のすき間をなくすように、配管キャップなどを取り付ける。

※すき間が大きいと消火したり、炎がもぐりこんだりして異常過熱の原因になります。

（単位：mm）



標準配管例

No	配管仕様
①	ガス管（R1/2）
②	ねじガス栓
③	エルボ（Rc1/2）
④	ニップル（R1/2）
⑤	金属可とう管

② コンロとオーブンを複合で設置する場合の配管方法

◉ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続する。

◉ガス配管接続と配管方法と電気配線工事は、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照。
（対応オーブンは、型式にU、S（例：RBR-S14E、RSR-S14E）とつくタイプ。）

7 設置後の点検確認 の項目へ

6 コンロとオーブンの複合設置

※オーブンとの複合設置をする場合、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照し、**トッププレートから後面の可燃物との距離**を確認し、コンロとオーブン両方満足する距離を確保して、設置してください。
※対応オーブンは、型式にU、S（例：RBR-S14E、RSR-S14E）とつくタイプです。それ以外のタイプは、別売のオーブン接続キットが必要になります。詳しくは、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。
※他社製品との混合設置はできません。
※工場出荷時はコンロ単品での設置仕様になっております。これをオーブンと接続できる仕様に変更する必要があります。

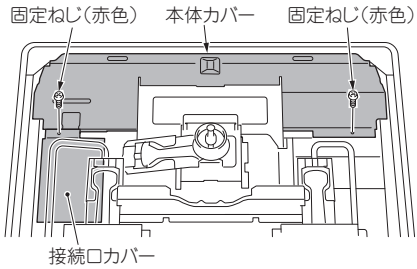
1．部品の取りはずし

① グリルとびらを引き出して、グリル庫内のグリル焼網、グリル皿を取りはずす。
（P 9 図 2 図 3 参照）

② 本体カバー、接続口カバーを取りはずす。
図16

◉固定ねじ（赤色）2本をはずして取りはずす。
※取りはずした本体カバー、接続口カバー、固定ねじ（赤色）2本は不要です。

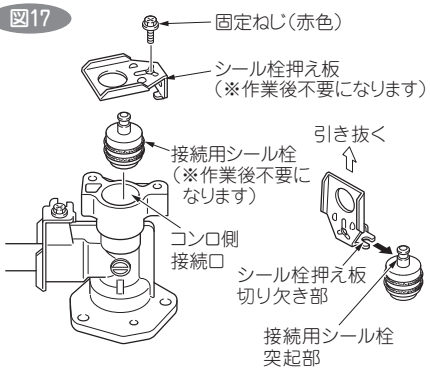
図16



③ コンロ側接続口の接続用シール栓を取りはずす。 図17

◉本体内左後部にあるコンロ側接続口の固定ねじ（赤色）1本をはずす。
※固定ねじは再び使用します。
◉シール栓押え板を回転させて取りはずす。
◉接続用シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜く。
◉工具がない場合は、シール栓の突起部にシール栓押え板の切り欠き部を引っかけて抜く。

図17



⚠注意

■コンロを単独設置する場合は、接続用シール栓をはずさない

ガス漏れの原因になります。

■底シール栓、底シール栓押え板 図21 が確実にはまっていることを確認する

確実にはまっていないとガス漏れの原因になります。

■底シール栓押え板の固定ねじ（赤色）がゆるんでいないことを確認する

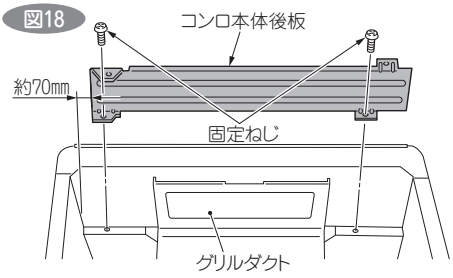
固定ねじ（赤色）がゆるんでいると底シール栓押え板がはずれて、底シール栓が抜け落ち、ガス漏れの原因になります。

2．部品の取り付け

① コンロ本体後板を取り付ける。 図18

- オーブンに同梱のコンロ本体後板を右側によせて、本体後部に固定ねじ2本で取り付ける。
- グリルダクトに当たって、コンロ本体後板が取り付かない場合は、グリルダクトをはずす。

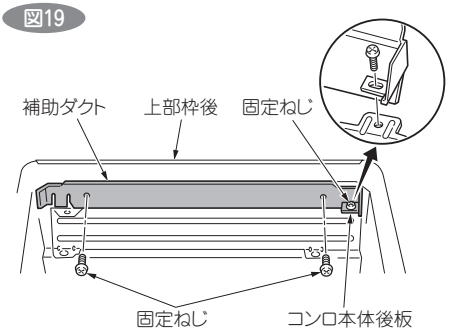
図18



② 補助ダクトを取り付ける。 図19

- オーブンに同梱の補助ダクトを、本体上部枠後に手前から固定ねじ2本で取り付ける。
- 補助ダクトを、コンロ本体後板右側に固定ねじ1本で取り付ける。

図19



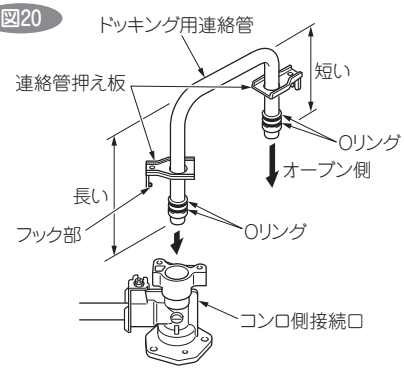
3．ドッキング用連絡管の取り付け

① ドッキング用連絡管を取り付ける。
図20

◉オーブンに同梱のドッキング用連絡管の長い方を、コンロ側接続口に確実に奥まで挿入する。

※ドッキング用連絡管の取り付けは、コンロをオーブンに組み込んだ後からでも可能です。

図20



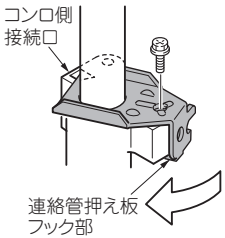
② 連絡管押え板を取り付ける。 図21

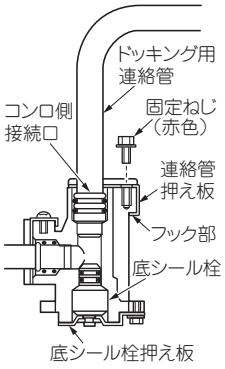
◉ドッキング用連絡管に付いている連絡管押え板を回転させ、フック部がコンロ側接続口にかかるようにして、 図17 で取りはずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付ける。（取り付け位置は2カ所あるが、どちらでも取り付け可能。）

◉連絡管押え板が回転できずに浮き上がるときは、連絡管を確実に奥まで押し込む。

図21

【連絡管押え板の取り付け方法】
連絡管押え板を矢印方向に回転させ、フック部をコンロ側接続口にかける





⚠注意

■Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない

グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

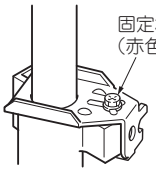
■ドッキング用連絡管にOリングが4個付いていることと、Oリングに傷がついていないことを確認する

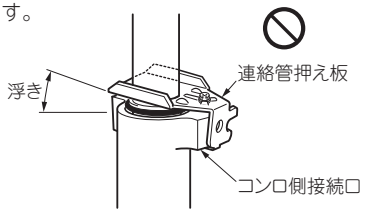
Oリングの数が不足していたり、傷がついているとガス漏れの原因になります。

■連絡管押え板が浮いていないか確認する

■固定ねじが確実に取り付けてあるか確認する

連絡管押え板が浮いていたり、固定ねじ（赤色）が取り付けてなかったり、ゆるんでいたりすると、ガス漏れの原因になります。





4．コンロの組み込み前の作業

① オーブンを設置する。

◉オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照して、設置する。

◉オーブンの接続用シール栓をはずす。

5．コンロの組み込み

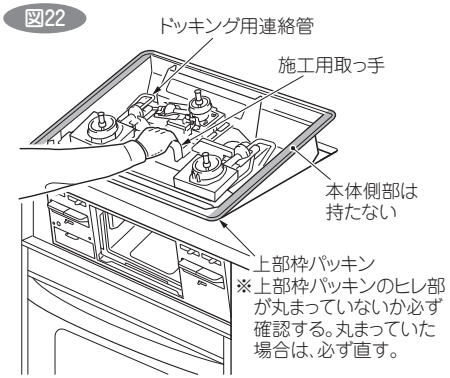
① コンロを組み込む。

◉設置時には、必ずコンロの施工用取っ手を持って行う。 図22

◉前面を先に挿入し、オーブン部の排気ボックスに乗り上げないように注意しながら、ドッキング用連絡管の管端を、オーブンの接続口に合わせて挿入し、コンロをオーブンに取り付ける。

図22 図24

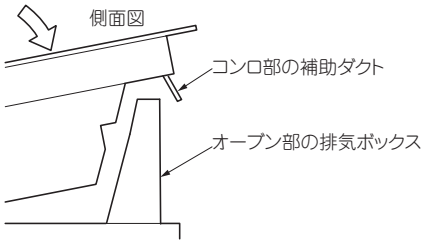
図22



◉ドッキング用連絡管をオーブンの接続口に最後までもう一度押し込む。 図23 図24

※コンロ部の補助ダクトが、オーブン部の排気ボックスに乗り上げていないか確認してください。

図23



② 連絡管押え板を取り付ける。 図24

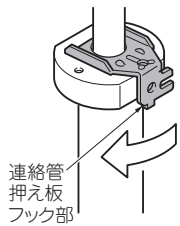
◉ドッキング用連絡管に付いているオーブン側の連絡管押え板を回転させ、フック部がオーブン側接続口にかかるようにして、オーブン側接続口から取りはずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付ける。

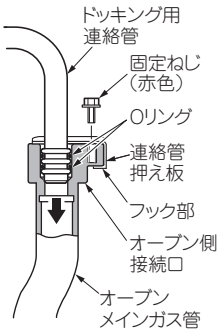
◉連絡管押え板が回転できずに浮き上がるときは、ドッキング用連絡管を確実に奥まで押し込む。

※オーブン側接続口に届かない場合は、オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照し、オーブンの高さ調節をして、確実に接続する。

図24

【連絡管押え板の取り付け方法】
連絡管押え板を矢印方向に回転させ、フック部をオーブン側接続口にかける





⚠注意

■Oリングに傷をつけない
ガス漏れの原因になります。

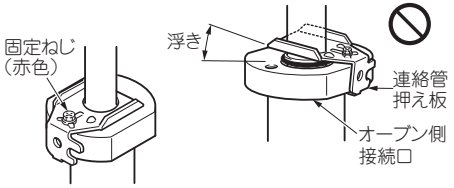
■Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない
グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

■Oリングが付いていることを確認する

■ドッキング用連絡管の接続は、確実に行う

■連絡管押え板が浮いていないか確認する

■固定ねじが確実に取り付けてあるか確認する
連絡管押え板が浮いていたり、固定ねじ（赤色）が取り付けてなかったり、ゆるんでいたりすると、ガス漏れの原因になります。



6．エンドピース・グリルとびら・グリル皿・グリル焼網の取り付け

※ 4 コンロの単独設置 の P11を参照して、取り付ける。

7．コンロ部とオーブン部の固定

① コンロ部とオーブン部を固定する。
図25

◉コンロ部の本体固定用穴とオーブン部の本体固定用ねじ穴を合わせる。

※コンロ部の前面とオーブン部の前面が合っているか確認する。

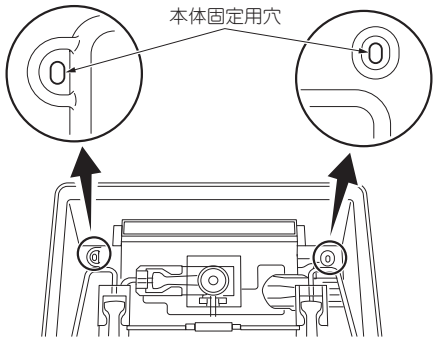
◉オーブンに同梱の本体固定ねじ（M５ねじ（赤色））２本で固定する。

② ワークトップに固定する。

※ 4 コンロの単独設置 の P12 図 9 を参照して、止めねじ４本で取り付ける。

※オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照して、オーブンを固定する。

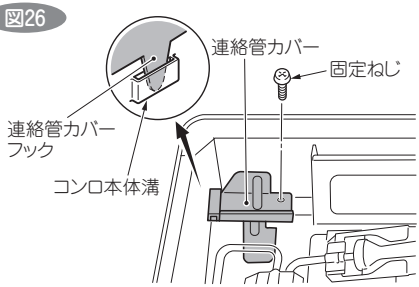
図25



8．連絡管カバーの取り付け

◉オーブンに同梱の連絡管カバーのフックをコンロ本体側板の溝に引っかけ、もう一方は、コンロ本体後板の左側に固定ねじ1本で固定する。
図26

図26



9．部品の取り付け

◉トッププレート・ごとく・バーナーキャップ・排気口カバー・乾電池などを取り付ける。

※ 4 コンロの単独設置 の P12～16を参照して、取り付ける。

10．ガス配管工事・ガス配管接続工事

※オーブンに同梱の「設置工事説明書」を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行う。

※必ず、ガス漏れ検査を行う。

7 設置後の点検確認

◉チェックリストに基づいて確認する。

点検項目		点検内容	参照項目	チェック
機器およびその周辺	ガス種	使用するガス種に適合しているか。（銘板確認）	1	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分か。 オーブンとの複合設置をする場合、オーブンの設置工事説明書で離隔距離を確認したか。	1	
	水平設置	水平に設置されているか。	1	
	安定設置	ガタツキはないか。	1	
	換気設備	十分換気できる場所に設置されているか。	1	
キャビネット		キャビネットに背板があるか（機器後方に穴があいていないか）	1	
ガス配管接続工事		ガス漏れはないか。	5	
ラベル貼付		接続員の設置者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付したか。		
同梱部品		部品の不足はないか。また正しく取り付けられているか。	3 4	
その他		グリル、オーブン庫内に包装部材が残っていないか。		

8 試点火および試運転

① 試点火および試運転

◉正しく設置されていることを確認してから、機器のガス栓（ねじガス栓）を開き、取扱説明書に基づき、点火および作動の確認を行う。

② 試運転終了後の処置

◉試運転終了後は、必ず機器のガス栓（ねじガス栓）を閉め、乾電池を取りはずす。
また、オーブンとの複合設置をした場合には、オーブンの電源プラグをコンセントから抜いておくか、オーブンと接続している電源ブレーカーを「切」にする。
※電源ブレーカーを切る場合は、オーブン専用の電源ブレーカーであることを確認してください。

⚠注意

■試運転終了後必ずガス栓（ねじガス栓）を閉める

③ お客様への説明

◉必ず取扱説明書に基づいて、機器の取り扱いを説明する。

◉必ず取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明する。

◉取扱説明書（保証書付）、設置説明書の保管のお願いをする。

製造者 リンナイ株式会社